

令和7年度 習志野市立秋津小学校 学校経営方針

学校教育目標

「国際社会に生きる知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

学校の特徴・実態

- 1 コミュニティ・スクールとして「地域の風がいきかう学校づくり」の一層の推進
 - ・ 学校運営協議会、パートナー会議を実施し、学校経営に意見と教育活動への支援をいただいている。
(安全支援ボランティア、環境支援ボランティア、情報支援ボランティア、学習支援ボランティア)
 - ・ 地域と連携した学校行事に取り組んでいる。(学校と地域の大運動会等)
- 2 「わかる授業」による基礎・基本の定着と「確かな学力」の維持・向上
 - ・ ユニバーサルデザインの視点で教室環境を整え、学習に集中できる環境づくりに取り組んでいる。
 - ・ 「一人1台タブレット端末の積極的な活用」“とにかく使う”から“どのように使うか”へ
 - ・ 朝学習、家庭学習を連携させて、基礎・基本の定着を目指している。
- 3 心豊かな児童を育む教育の充実
 - ・ 「あきつ あいさつ ありがとう」を合言葉に、挨拶を通して人間関係を育てている。
 - ・ 「特別活動」の充実。児童会を主体とした人間関係づくり→自立心、いじめ・不登校対策へ
 - ・ 秋津の福祉エリアを活用し、福祉教育(高齢者体験等)に取り組んでいる。
 - ・ 縦割り活動の異年齢集団活動を通して、コミュニケーション能力を育てている。
- 4 健康で、たくましい児童を育む体育及び健康の推進
 - ・ 体育科研究を生かして「意欲喚起・集団づくり・教材づくり」に努め、正課体育の充実を図っている。
 - ・ 業間体育(サンタイム、遊友スポーツランキングちばへの参加等)を工夫し体力向上を図っている。
 - ・ 秋津っ子マラソンに**通年**通して取り組むことで体力の向上を図っている。
 - ・ フッ化物洗口(毎週水曜日朝)に取り組み虫歯予防に努めている。
- 5 環境整備の充実
 - ・ 教室環境・校内環境に**全校**で統一して取り組んでいる。「秋津スタイル」
 - ・ 地域清掃「クリーン運動」に取り組んでいる。
- 6 教職員の資質や指導力の向上
 - ・ 研究教科「体育」から他教科へ、指導方法の工夫改善に努めている。
 - ・ 計画的に若年層研修や相互授業参観を行い、指導力向上を図っている。

目指すべき姿

【目指す学校像】

- ・ 子供が主体の学校
- ・ 笑顔あふれ活力のある学校
- ・ 地域と共に協力し合える学校
- ・ 共に生きる子(生きる力の根幹)

【育てたい児童像】

- ・ 自ら学び考える子(知)
- ・ 思いやりのある子(徳)
- ・ たくましい子(体)
- ・ 自己研鑽に努め、専門性を高める教師

【目指す教師像】

- ・ 子供と共に学び合える教師
- ・ 人間性豊かで、子供、保護者、地域から信頼される教師

学校経営の重点目標

【学力の向上】

- 1 基礎的・基本的な知識や技能の定着を図り「わかる授業」の推進及び教室環境の充実。

【体力の向上】

- 2 子供の生活全体を通して体育及び健康教育の総合的な推進。

【人権教育】

- 3 思いやりの心を育て、いじめや体罰の根絶に努める。

【特別支援教育】

- 4 特別支援学級の理解と教員の育成及び児童の個別支援を充実させる。

【地域との連携】

- 5 学校運営協議会やパートナー会議、PTAとの一層の協働により、地域ぐるみで子どもの教育に取り組む環境づくりを推進する。

短期経営目標を達成するための具体的方策

長年コミュニティ・スクールとして地域と共に子供たちを育ててきた本校の教育的財産及び、体育研究で培ってきた仲間づくりの手法を活用し、児童を安心・安全な環境でのびのび活動させる中で自己肯定感を高め、笑顔と活気のあふれる学校を実現する。

- 1 「わかる授業」を推進し、学習意欲を向上させる。
 - ・ 児童理解をもとに、ICT を活用するなど、個に応じた指導を推進する。（個別最適な学び）
 - ・ 体育の授業で、ともに考え、認め合い、励まし合うことで、達成感を味わわせ、自己肯定感を高める。この経験を活かして相互信頼で結ばれた仲間づくりを進め、他の学習や活動においても意欲と積極性を引き出す。（協働的な学び）
 - ・ ユニバーサルデザインの視点で教室環境を整え、学習に集中できる環境をつくる。
 - ・ 計画的に若年層研修や相互授業参観を行い、指導力向上を図る。
- 2 健康でたくましい児童を育む。
 - ・ 体育科研究を活かして「意欲喚起・集団づくり・教材づくり」に努め、正課体育の充実を図る。
 - ・ 体力向上研究を活かした業間体育（サンタイムとぐんぐんタイム、遊友スポーツランキングちばへの参加）や秋津っ子マラソン等を通して体力向上を図る。
- 3 思いやりのある心豊かな児童を育む。
 - ・ 「あきつ あいさつ ありがとう」を合言葉に、挨拶を通して人間関係を育てる。
 - ・ 縦割りの異年齢集団活動や地域の方の支援を受けた学習活動を通して、コミュニケーション能力や感謝の気持ちを育てる。
- 4 インクルーシブ教育の視点に立った特別支援教育を推進する。
 - ・ 特別支援教室の児童が通常学級で交流できるように、担任、保護者、支援員の共通理解のもと、積極的な交流学习を行う。
- 5 コミュニティ・スクールとして「地域の風がいきかう学校づくり」を推進する。
 - ・ 学校運営協議会、パートナー会議を実施し、学校経営への意見と教育活動への支援をいただく。（安全支援ボランティア、環境支援ボランティア、情報支援ボランティア、学習支援ボランティア）
 - ・ 地域・保護者の協力を仰ぎ、安心・安全な環境の中で学校行事を行う。（学校と地域の大運動会・マラソン大会等）